～小牧市民病院より～

健康通信

問合先　市民病院（☎ 76 - 4131）

形成外科　医師　中野　千郷

キズの治し方について

形成外科とは、けがや病気などにより身体に生じた組織の異常や変形、欠損、整容的な問題（がんの切除などによって生じる変形や凹み）に対して、さまざまな手段を使って、機能だけでなく見た目もより正常に、より美しくすることで、患者さんの Quality of Life（QOL）の向上に貢献する科です。

キズをきれいに治す専門科と思っていただければよいと思います。

今回はキズの治し方や応急処置についてお話します。

キズは乾かさない。洗ってきれいにしましょう

「転んだあとのキズに消毒をして、カサブタをはらせて治す」は、今や古い治し方です。

キズを消毒すると、皮膚の常在菌まで殺してしまうため、逆にキズが治りにくいと言われています。また、キズは乾かすよりも適度にしっとりとした環境にいた方が、より早く治るということがわかってきました。これは湿潤療法といって、当院では 2003 年頃から導入しています。湿潤療法をするにあたって大事なことは、キズをきれいに保つことです。

キズは水道水でよく洗って、汚れを落としましょう。目で見て、ガラス片や土や砂利などの異物がない状態にしてから、ワセリンなどの軟膏を塗って、絆創膏で保護します。キズに異物が残ったままだったり、絆創膏を交換せずに貼りっぱなしなど、清潔な状態が保たれていないと、感染を起こして化膿することもあります。異物がとりきれない場合は、病院を受診してください。

ご自宅でできる応急処置

●血が止まらないとき

清潔なタオルや滅菌ガーゼなどで、傷口を強く押さえます。これを圧迫止血といいます。指や腕などであれば、心臓よりも上の位置を保つとさらに効果的です。じわじわにじむくらいの出血であれば、数分～数十分で止血できることが多いです。吹き出るような出血の場合は、動脈が切れている可能性があるため、受診をおすすめします。

●やけどをしてしまったとき

まず大事なのは、冷やすことです。服を着たままでもよいので、すぐにシャワーなどの流水で 5 分程度冷やしましょう。冷やすことで、やけどの深さを最小限に食い止めることができます。氷や保冷剤での冷却は冷やしすぎとなるため、流水程度の水温にとどめましょう。

●ヒトやペットに咬まれたとき

人間を含めて、動物の口の中にはいろんな菌がいます。まずは傷口をよく洗いましょう。傷口を縫ってしまうと、悪い菌を閉じ込める可能性があるため、基本的には傷口は縫わずに、湿潤療法で治します。抗生剤を内服したほうがいい場合もあります。

▲病院ホームページ　▲診療科ホームページ